

別所集落の健康診断

●農地を守りたい！

3月11日に別所多目的集会所で別所集落の「集落の健康診断」が行われました。

問題・課題については事前に検討されていて、15項目が挙がっていました。今回は、その中で農業と後継者（嫁・婿）不足について、ワークショップ（話し合い）を行いました。

まず最初に「誇り・自慢すること」について参加者の方に、それぞれの思いを付箋に書いていただきました。別所は自然環境が良く、水・米・野菜が美味しい。将来もこの環境は変わらないであろうという意見でましまりました。問題・課題では、農業収入の向上、安定収入、農産物の高付加価値化について話し合いをしました。解決方法として「環境を活かした別所ブランドづくり」をしてはという意見や、加工品をつくるための機械購入をしようなど具体案もだされました。また、女性からの意見として、こんにやくや蕎

別所ブランドづくりが できないか？



麦、豆腐などいろいろな加工品を作って皆で食べているが、山菜なども採れるので食堂経営としてはどうかという意見も出され、ワークショップは和気あいの雰囲気でした。

その他にも、高齢化に対応するには共同で作業をしていかなと農地が守れないという意見や、農業公社を設立してもらい、管理してもらわないといけないのではということも話し合いがされました。

有意義だったワークショップ

別所自治会長 小村和彦

いったい集落のどのようなことをチェックし、何をやるのだろうか？と他の自治会員と同様に不安を抱きながら町役場担当職員の説明を聞きました。

これまで『地域づくりは行政が行うもの』として認識し『不便』『住みにくい』『行政は何も考えていない』など不満を蓄積させ、地域が悪いのは県や町の行政責任としてとらえてきました。

そして、集落の問題や課題を住民が共有したうえで地域づくりでなかったため、今のままでいいのか、集落の将来に不安を

抱えています。

今回のワークショップで、集落の良いところはどこか、それを生かすにはどうしたらいいのか、問題点や課題は何かを参加者一人ひとりが話し合いました。

話し合っていくうちに、住みやすい集落づくりは『住民が責任を持つこと』が重要なだと気づかされました。

私たちの集落の健康診断は始まったばかりです。今後も話し合いを重ね、行政と手を携えてよりよい集落づくりに努めたいと思います。

じげの言葉で って委員会

御来屋4区 木谷邦子

「集落の健康診断」の集まりがあると聞いてどんな会になるのかなと楽しみにでかけました。

「この集落の誇れることは？」の話題になると集まった皆さんから区のよいところが次々と出てきます。すると、いつのまにか会場に和やかな一体感が生まれてきました。愛する町づくりについて語るスピードは一向に衰えることなく、あつという間の2時間でした。

近所づきあいが希薄になった

といわれる昨今ですが、まだ、大山町には助け合えるご近所があります。このような「じげの言葉」で語り合えるような集会であれば、明るく、楽しく暮らせる町にすることも難しい話ではないような気がします。

私達自身が集落のよさや、問題点について意見を出しあい、考え、出来ることを見つけ出すことが、住みよい街づくりの第一歩につながると思えました。